式辞

本日ここに、新潟県教育委員会教育次長　長谷川雅一　様、長岡市長　磯田達伸　様をはじめ多数のご来賓、並びに同窓会員、親師会員、後援会員の皆様方の御臨席を賜り、新潟県立長岡高等学校創立150周年記念式典を挙行できますことは、学校としてこの上ない喜びであり、教職員、生徒一同心から御礼申し上げます。

なお、本来ならば全校生徒がこの会場に参集し式典を挙行すべきところですが、新型コロナウィルス感染症の感染防止対策として、今回はリモートによる学校からの参列とさせていただきました。ご容赦いただきますようお願いいたします。

さて、時は遡ること明治三年、当時戊辰戦争後の混乱にあった長岡に、西蒲原郡三根山藩から戦災見舞として米百俵が寄贈されてきました。小林虎三郎は多くの非難を受けながらも「食えぬからこそ教育をするのだ」と断言し、これを元手の一部として現在の大手通に、国漢学校を設立しました。国漢学校は、藩校崇徳館の遺風を受け、国漢学はもちろん洋学局、医学局、演武場等の施設を有し、さながら総合大学の観を呈していたといわれています。しかし、廃藩置県により国漢学校は廃止され、その洋学局を発展させる形で、三島億二郎等は明治５年11月23日に長岡洋学校を開設し、英語教育の重要性を熟知していた三島億二郎は慶應義塾の英才を引き抜いて教育に当たらせました。これが、本校の起源とされています。

以来本校は、幾多の困難に遭い、また時勢の転換に伴い幾度か内容、経営を変え校名を改め、明治33年に新潟県立長岡中学校となり、昭和23年に現在の新潟県立長岡高等学校となりました。これまの卒業生は３万８千人に上り、政官財はもとより教育、芸術、文化の分野でも活躍し、地元長岡のみならず、新潟県のそして日本の発展を支えております。

現在の長岡高校は、伝統精神である「剛健質樸」「豪爽快活」そして「和而不同」を受け継ぎつつ、「人格高潔で人間的魅力に富み、世界を舞台に指導的役割を果たすことのできる人材の育成」を学校運営方針に掲げ、教職員一丸となって指導にあたっております。平成30年から始まった第３期目のスーパーサイエンスハイスクール事業では、それまでの理数教育の成果を踏まえ、その対象を普通科にまで拡大し、全校生徒が論理的思考力・批判的思考力・ディスカッション能力を身につけるとともに、主体性や課題解決能力を高める事業へと発展させました。大学入試改革へもいち早く対応し、この春の卒業生は、半数以上が国公立大学に進学すると共に、東京大学、京都大学をはじめとした難関大学や医学部医学科に多くの卒業生が入学を果たしております。これもひとえに、長岡高校の歴史を作り上げてきた先輩諸氏のこれまでのご尽力と、同窓会、親師会をはじめとした長岡高校に関わる全ての方々のご支援があってのことであり、心より御礼申し上げます。

「庠舎（しようしや）は遠く市を離れ　更に塵事（じんじ）の喧（かまびす）しきことなし
　月光天宇を照らし　秋気書軒に満つ
　朝（あした）に講ず安民の策　夕べに究む富国の言
　英雄他日に出でて　威勢乾坤（けんこん）を圧せん」

生徒の皆さん、これは、新潟学校第一分校と改名した洋学校に明治７年に入学し、後に東

洋大学を創設した井上円了が当時の学校を表現した漢詩です。

「校舎は遠く市を離れたところにあり、その上俗事の喧噪もない。
月光は天空を照らし、爽やかな秋の気は書殿に満ちている。
朝には民を案ずる政策を講じ、夕には国を富ます言説を考究する。
ここから英雄がいつの日か現れ、その威勢は天地を揺るがすであろう。」

開校当初の落ち着いた雰囲気とその目指すところが如実に表現されています。当時はまだ明治維新後の混乱にあり、新政府から次々と新しい政策が打ち出されていた頃、これからの日本を支えていこうという高い志を持つ若者が長岡校で育っていたということです。

生徒の皆さん、本校には、この精神を、時勢にもまれながらも、明治、大正、昭和、平成、そして令和と、百五十年の長きに渡って脈々と受け継ぎ、教員と生徒が共に歩んできたという誇るべき歴史があります。今日のこの日を契機に、本校の歴史を振り返り、あらためて、長岡高校で学ぶことの意義を再確認して欲しいと思います。

また、現在の日本は多くの課題を抱えています。少子高齢化が叫ばれて久しく、近年めざましいＩＴ、ＡＩの発展により社会構造すら変わろうとしています。持続可能な社会の実現が叫ばれる中、そのための十七の開発目標が掲げられ、日本を含む多くの国が動き出しています。皆さんには、そういう社会をただ生きるのではなく、そのリーダー的存在として社会を生きて欲しい。先輩たちがそうしてきたように、長岡高校で学ぶ皆さんにはそれができると私は考えます。皆さんに寄せられる期待は大きく、それに応えるためにも、自分の目標を明確に持ち、その目標に向かって日々研鑽し、経験を積み、感性を高めていきましょう。

結びに、創立百五十周年という大きな節目の年に当たり、教職員一同、あらためて本校の歴史と与えられた使命の重みを感じつつ、皆様の期待に応える教育を一層邁進してまいる所存です。本日ご臨席の皆様には、今後とも本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますことをお願い申し上げますとともに、皆様の御発展と御多幸を祈念申し上げ、式辞といたします。

令和３年10月23日
新潟県立長岡高等学校長
鈴木　勇二